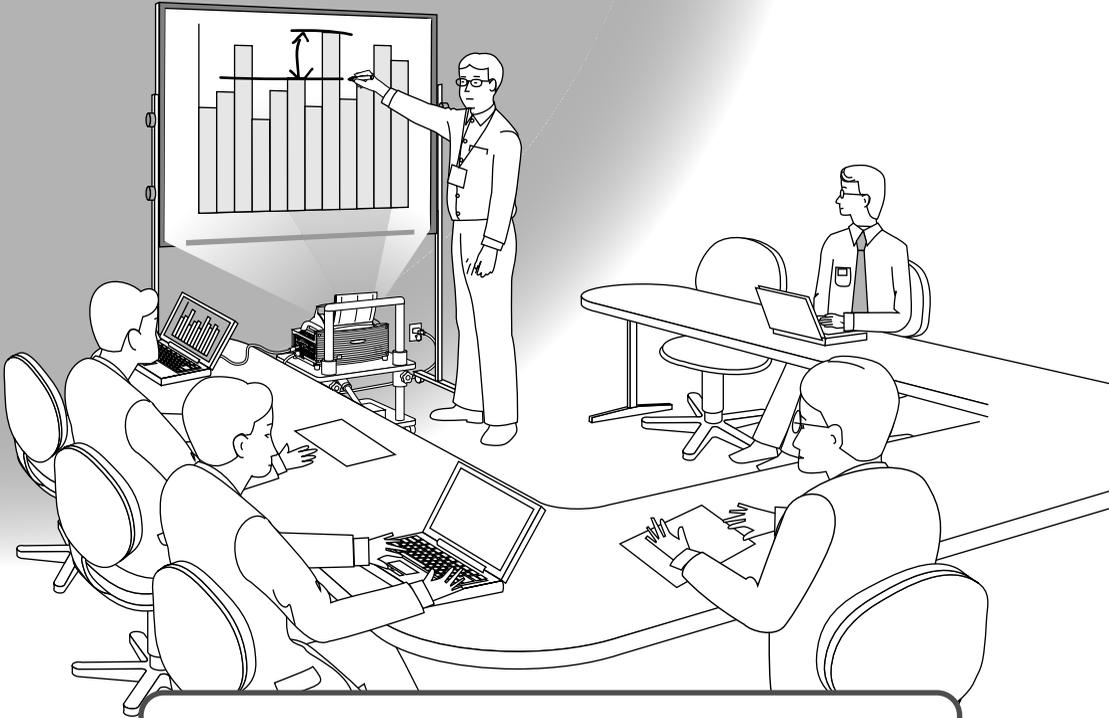


ミラー投写型プロジェクター

ViewLight[®] WT615J/WT610J
ビューライト

スタートアップガイド



本書の記載内容

このたびは、NECミラー投写型プロジェクターWT615J/WT610Jをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この『スタートアップガイド』は、本機を設置してから投写し、画面のサイズや位置を調整するといった基本的な操作手順を説明しています。

また、WT615Jに標準添付している電子ペンの基本的な操作方法も説明しています。

本機には、複数の説明書を添付しています。説明書の使いかたについては、『補足説明書』の冒頭をご覧ください。

安全に関する絵表示について

本書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次のような絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

**警告**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。

**注意**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の家財に損害をあたえたりすることがあります。

 **警告**

- プロジェクター、スクリーン、および置き台は、傾いた所や不安定な場所には設置しないでください。
スクリーンが倒れたりプロジェクターが落下して、けがの原因となります。
- 置き台にプロジェクターを設置するときは、天板を水平に固定してから行ってください。天板が傾いているとプロジェクターが落下して、けがの原因となります。
- 置き台は、プロジェクターの質量（本機の場合は約6.4kg）に十分耐えられるものを使用してください。プロジェクターが落下して、けがの原因となります。

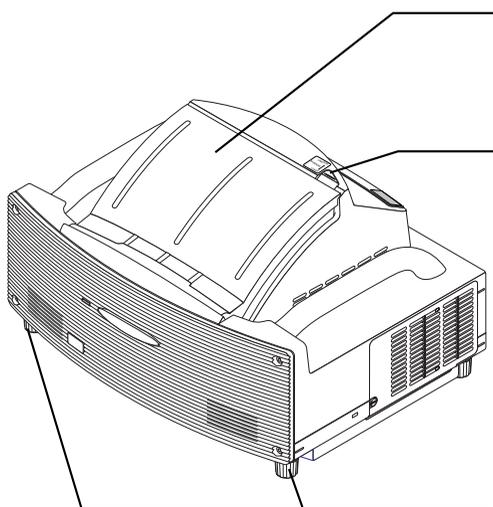
安全に関する絵表示について	表紙裏
目次	1
本体各部の名称	2
1. スクリーンとプロジェクターを設置する	3
2. 接続する	6
3. ミラーを開く	7
4. 本機の電源を入れる	8
5. 投写画面の位置と大きさを調整する(フォーカス調整)	10
6. 入力信号を選択する	17
7. 映像を自動調整する	19
8. 糸巻き型または樽型の歪みを調整する(ピンクッション補正)	20
9. レーザーポインタを使う	22
10. 電子ペンを使う(WT615Jのみ)	23
11. 本機の電源を切る	27
12. あとかたづけ	28
NECプロジェクター・カスタマサポートセンターと ビューライトクラブのご案内	裏表紙

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしました。万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。
- (4) 本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では(3)項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

本体各部の名称

● 本体前面



ミラー

映像を投写するときはこの部分を開きます (▶ 7ページ)。

ミラーの開け閉めはゆっくりと行ってください。

ミラー用ロック

ミラーを開く際は、指でロックをずらして解除します。

また、ミラーを閉じたときは、ロックしてください。

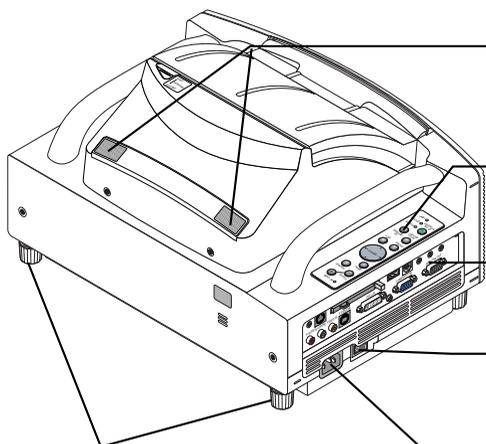
フット (底面に4本)

回すと高さの微調整ができます。

本体ががたつかないように、かつ水平になるように調整してください。

フットは最大約30mmまで伸ばすことができます。

● 本体背面



電子ペン用センサ (WT615Jのみ)

電子ペンの動作を検出します。

本体操作部

本機の電源の入/切や、投写する映像信号の切り替え操作などができます (▶ 6ページ)。

接続端子部

各種映像信号や音声信号のケーブルを接続します (▶ 6ページ)。

主電源スイッチ

主電源スイッチを「I (入)」にすると、スタンバイ状態になります (▶ 8ページ)。

AC IN 端子

添付の電源コードを接続します (▶ 6ページ)。

参考

● 本体各部の名称について詳しくは、補足説明書をご覧ください。

1. スクリーンとプロジェクターを設置する

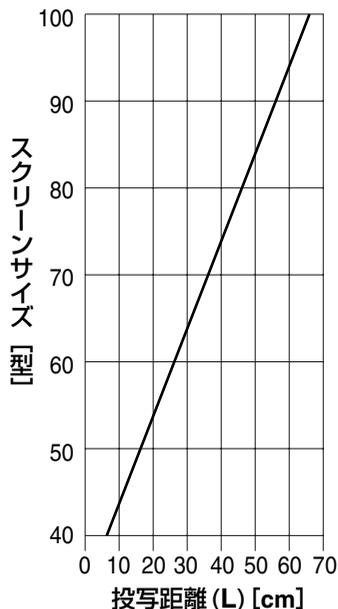
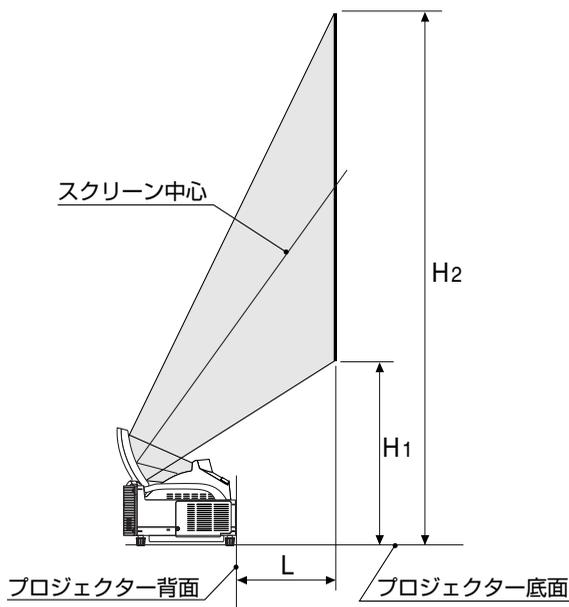
- 1** 図の「投写距離」を参照し、スクリーンサイズに応じて、スクリーンと本機の距離を取る。

例えば、60型のスクリーンに投写する場合は、約26.3cm離して設置します。

- 2** 図の「スクリーン下端の高さ」を参照し、スクリーンの高低の位置調整、または本機の置き台の高低の位置調整を行う。

例えば、60型のスクリーンに投写する場合は、本機の底面からスクリーン下端までの高さを、約48.2cmに設置します。

スクリーンサイズ (型)	投写距離 (L) cm	スクリーン下端の高さ (H1) cm	スクリーン上端の高さ (H2) cm
40	6.4	35.4	96.4
50	16.4	41.8	118.0
60	26.3	48.2 </td <td>139.6</td>	139.6
80	46.1	60.9	182.8
100	65.9	73.7	226.1



注意

- 設計値のため、±5%の誤差があります。
- 投写距離およびスクリーン上端/下端の高さは画面比4 : 3で計算しています。

本機に適したスクリーンについて

- 本機で投写できるスクリーンサイズは、40型（幅81.3cm×高さ61.0cm）～100型（幅203.2cm×高さ152.4cm）です。



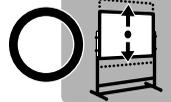
- 表面がフラットなパネルタイプのスクリーンを使用してください。
ロール式のスクリーンなど、スクリーン表面がたわんだり波を打ちやすいものは使用しないでください。投写した映像の歪みが大きくなります。



- スクリーンを真横から見て垂直になるように設置してください。
スクリーンが上方や下方に傾いていると、台形歪みが大きくなります。



- 本機の場合、スクリーンサイズを大きくすると、投写位置が上方に移動します。そのため、高低の位置調整が可能なスクリーンを使用してください。スクリーンと本機の位置関係は、3ページをご覧ください。



- リアスクリーンを使用する場合、素材や使用条件により輝度ムラなどが発生することがあります。そのため、リアスクリーンを使用する場合は、導入前に投写して確認することをおすすめします。



- 高ゲインタイプのスクリーンは、本機には適していません。本機では、スクリーンゲインが低い（スクリーンゲイン1程度）ほど、より美しい映像が投写できます。
スクリーンゲインの値については、スクリーンのカタログなどで確認してください。



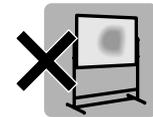
- スクリーンの外枠がスクリーン面よりも大きく前方に張り出している場合、スクリーンの外枠によって本機からの光がさえぎられてしまいます。



- スクリーンには、照明など本機以外からの光が入らないほうが、ハイコントラストで美しい映像が見られます。

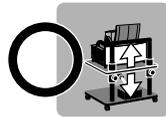


- スクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いに注意してください。

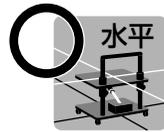


本機に適した置き台について

- 本機の場合、スクリーンサイズを大きくすると、投写位置が上方に移動します。そのため、高低の位置調整が可能な置き台を使用してください。スクリーンと本機の位置関係は、3ページをご覧ください。



- 本機が水平に設置できる置き台を使用してください。水平に設置できない場合は、オンスクリーンメニューで[傾き情報表示]を表示し、本機のフットを回して、水平になるように調整してください。



本機の設置環境に関するご注意

- 空調設備の通風口近くにはスクリーンを設置しないでください。スクリーンに風が当たって投写画面が揺れる場合があります。
- 本機にハロゲンランプなどの強い照明が当たらないようにしてください。本機のセンサが誤動作して、電源が入らないことがあります。

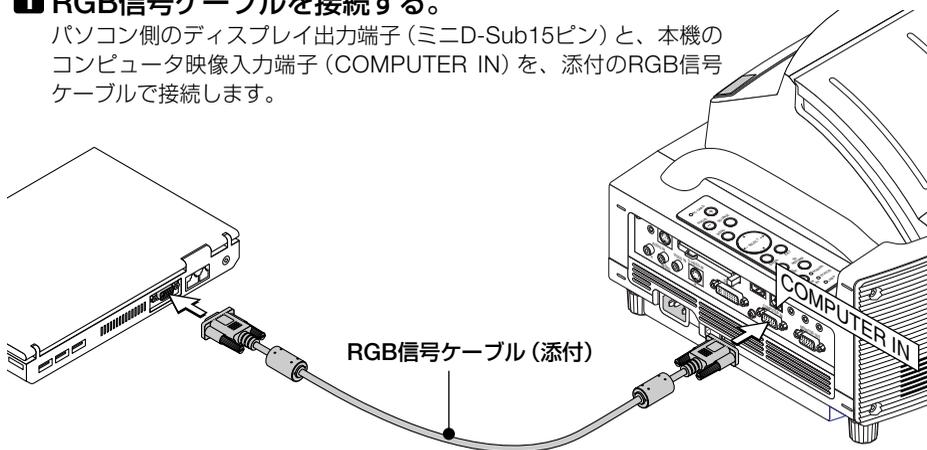
WT615Jで電子ペン機能を使用するときのご注意

- スクリーンは、表面が比較的硬いハードタイプかつ表面がフラットなものを使用してください。また、スクリーンサイズは40～80型を使用してください。
- スクリーン面の材質によっては、電子ペンを接触した際に、スクリーン面に傷が付く場合があります。電子ペンを使用する前に、スクリーンの端などの目立たない部分で、電子ペンによって傷が付かないか試してください。
- 次のような場所では使用しないでください。電子ペンが正常に動作しない場合があります。
 - ・ CRTディスプレイやテレビなどの近くでは使用しないでください。
 - ・ 金属などの音を反射しやすい材質の壁や天井で囲まれた場所では使用しないでください。
 - ・ インバータ蛍光灯の近くでは使用しないでください。
 - ・ スクリーン面にエアコンや扇風機の風が直接当たらないようにしてください。
 - ・ 直射日光が当たる場所には本機を設置しないでください
 - ・ スピーカからの音や騒音がする場所では使用しないでください。
 - ・ 本機を複数台、同じ室内で使用しないでください。
- 電子ペン機能の動作保証温度範囲は、15～35℃です。

2. 接続する

1 RGB信号ケーブルを接続する。

パソコン側のディスプレイ出力端子（ミニD-Sub15ピン）と、本機のコンピュータ映像入力端子（COMPUTER IN）を、添付のRGB信号ケーブルで接続します。

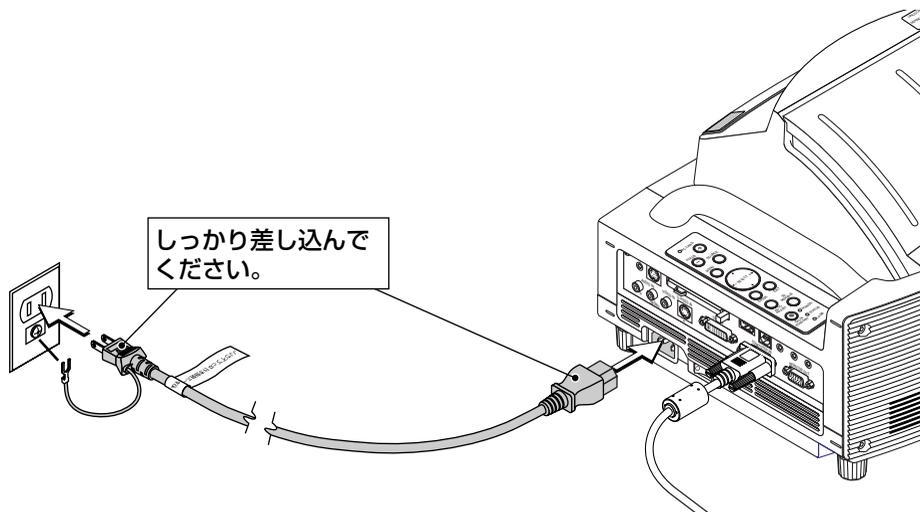


2 電源コードを接続する。

本機のAC IN端子と、AC100Vアース付きのコンセント（アース工事済み）を、添付の電源コードで接続します。

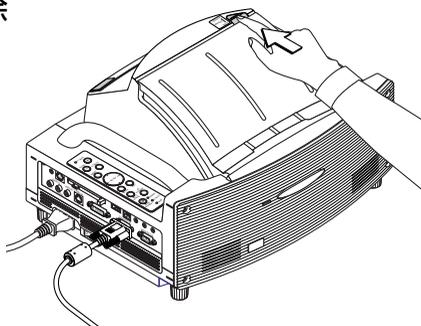


機器の安全確保のため、機器のアースは確実にとってご使用ください。感電の原因となりますので、アース工事は専門業者にご依頼ください。アースの接続は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。



3. ミラーを開く

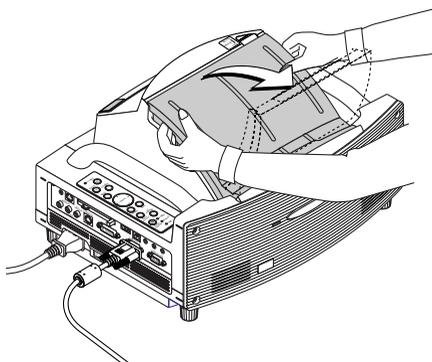
- 1** ミラー用ロックを指ですらして解除する。



- 2** ミラーの端を持ってゆっくり開く。

注意

- ミラーが完全に開くまで、ミラーから手を放さないでください。ミラーを開く際にミラーに強い衝撃を与えないでください。
- ミラーの表面には触らないでください。ミラーの表面に指紋などが付くと、画質低下の原因になります。ミラーに指紋が付いたときは、添付のミラー用クリーニングクロス(布)でふき取ってください (▶ 補足説明書「3-1.ミラーの清掃」)。



4. 本機の電源を入れる

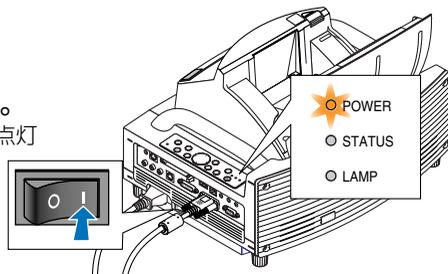
重要

- 本機の電源コードの取り付け、取り外しは、主電源スイッチが「○ (切)」の状態で行ってください。
主電源スイッチが「| (入)」の状態では電源コードの取り付け、取り外しを行うと、故障の原因となります。
- 本機の電源の入/切は、「主電源スイッチ」と「POWER (ON/STAND BY) ボタン (リモコンはPOWER (ON) (OFF) ボタン)」の2段階の操作で行います。
- 電源を入れる (▶ このページ)
 - 1 「主電源スイッチ」を「| (入)」にする。
本機がスタンバイ状態になります。
 - 2 「POWER (ON/STAND BY) ボタン (リモコンはPOWER (ON) ボタン)」を2秒以上押す。
本機の電源が入ります。
- 電源を切る (▶ 27ページ)
 - 1 「POWER (ON/STAND BY) ボタン (リモコンはPOWER (OFF) ボタン)」を押す。
画面に確認メッセージが表示されます。
 - 2 もう一度「POWER (ON/STAND BY) ボタン (リモコンはPOWER (OFF) ボタン)」を押す。
本機がスタンバイ状態になります。
 - 3 ファンの回転が終わったら、「主電源スイッチ」を「○ (切)」にする。
本機の電源が切れます。

1 ミラーを開く (▶ 7ページ)。

2 主電源スイッチを「| (入)」にする。

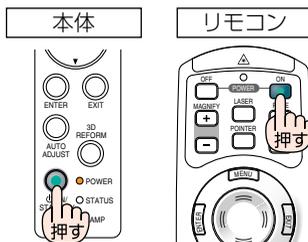
本機のPOWERインジケータがオレンジ色で点灯します (スタンバイ状態)。



3 POWER (ON/STAND BY) ボタンを2秒以上押す。

本機の電源が入り、スクリーンに映像が表示され始めます。

- リモコンで操作する場合は、POWER (ON) ボタンを2秒以上押します。
- 信号が入力されていないときは、青い画面 (ブルーバック : 工場出荷状態) が表示されます。
- ご購入後はじめて電源を入れたときは「Menu Language Select (言語選択)」画面が表示されます。次のように操作して「日本語」を選択してください。

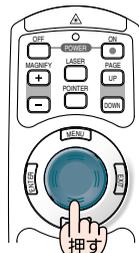
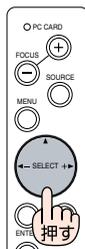


スタンバイ状態 約1分間点滅 点灯に変わる

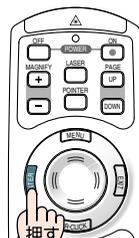
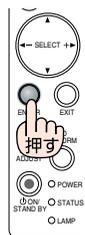


2秒以上押す

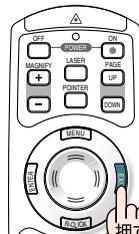
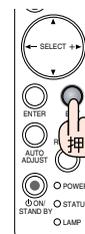
- ① **SELECT** (▼) ボタンを押して、青色のカーソルを [日本語] に合わせる。



- ② **ENTER** ボタンを押す。
選択した言語でメニューが表示されます。



- ③ **EXIT** ボタンを押す。
オンスクリーンメニューが消えます。



注意

- 次のような場合は、POWER (ON/STAND BY) ボタンを押しても電源が入りません。
 - ・ミラーが閉じているときは電源が入りません。
 - ・ミラー部分 (光線の通り道) にあるセンサが異物を感知した場合は電源が入りません。ミラーを傷つけないように注意して、ミラー部分から異物を取り除いてください。
 - ・ミラー部分 (光線の通り道) の底にある温度センサが高温を感知した場合は電源が入りません。ミラー部分の底のほこりなどを取り除いてください。
 - ・ミラー部分 (光線の通り道) に強い照明を当てないでください。センサが誤動作して、電源が入らないことがあります。
 - ・内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待って (内部の温度が下がって) から電源を入れてください。
 - ・ランプ交換時間 (目安) * がきた場合は電源が入りません。ランプを交換してください。*保証時間ではありません。
 - ・電源を入れてもランプが点灯せず、STATUSインジケータが点滅 (6回周期の点滅) している場合は、1分以上待って再度電源を入れてください。
- POWERインジケータ点滅中 (約1分間) は電源を切ることができません。
- 電源ON時、ランプが安定して点灯するまで (3~5分) 映像がちらつく場合があります。これはランプの特性上発生するもので故障ではありません。
- ランプの消灯直後やランプの温度が高いときに電源を入れると、しばらくの間冷却ファンのみが回転し、そのあとスクリーンに映像が投写されます。

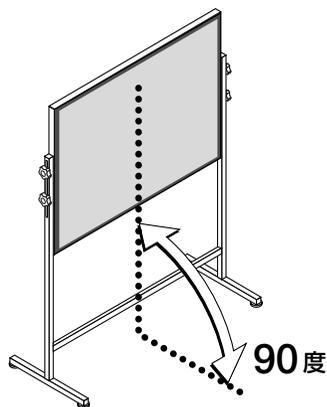
5. 投写画面の位置と大きさを調整する (フォーカス調整)

注意

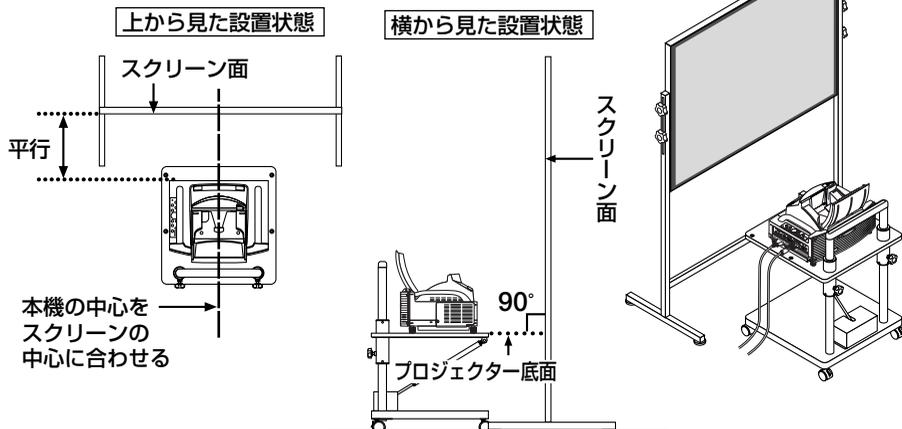
- 電源を入れたあと、ランプが安定して点灯するまで(約3~5分間)映像がちらつく場合があります。また、本機が安定するまでの間(約10分間)投写位置が若干変化する場合があります。
投写画面の調整は、ランプの点灯状態、および投写位置が安定してから行ってください。
- スクリーンが上下や左右に傾いていると台形歪みが大きくなります。次の手順に従って、スクリーンと本機の設置を適正に合わせてください。

WT615J/WT610J共通の操作

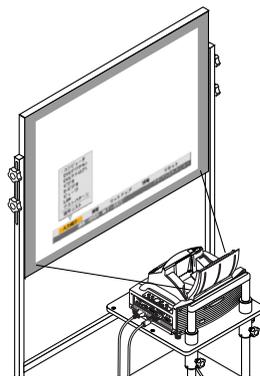
- 1** スクリーンが横から見てほぼ垂直に設置されているかを確認する。



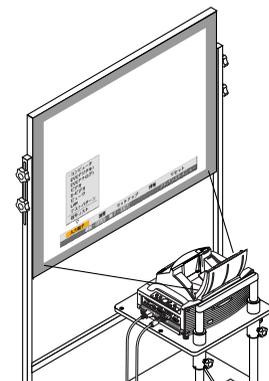
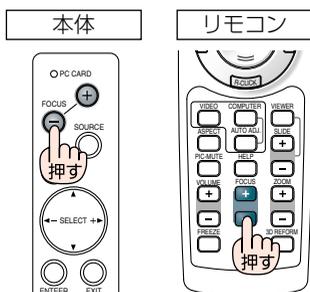
- 2** 本機がスクリーンとほぼ平行に設置されているかを確認する。



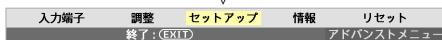
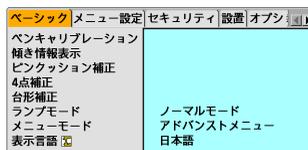
- 3** (MENU) ボタンを押す。
 オンスクリーンメニューが表示されます。



- 4** (FOCUS +/-) ボタンを押して、投写画面のピントを合わせる。



- 5** (SELECT ▶) ボタンを押して [セットアップ] にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。
 ・右の画面は、WT615Jのものです。



- 6** (SELECT ▼/▲) ボタンを押して [傾き情報表示] にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。
 投写画面いっぱいにテストパターンが表示され、同時に投写画面の下側に [傾き情報表示] 画面が表示されます。

【WT615Jの画面】

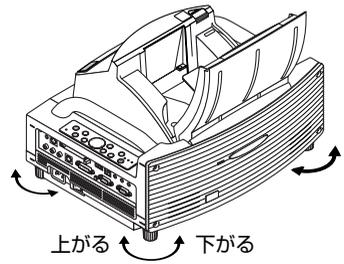


【WT610Jの画面】



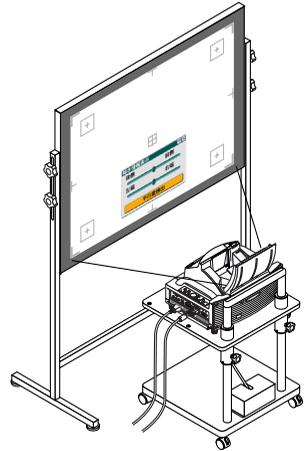
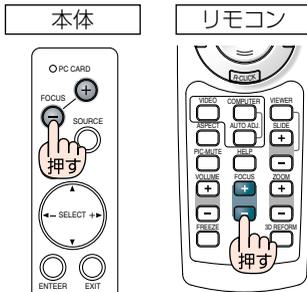
7 本機の底面の四隅にあるフットを回して、本機の傾きを調整する。

本機の傾きが変わると、それに応じて〔傾き情報表示〕画面の「前後」、「左右」のマーカ位置が変化します。「前後」、「左右」の調整バーのほぼ中央にマーカがくるように調整してください。

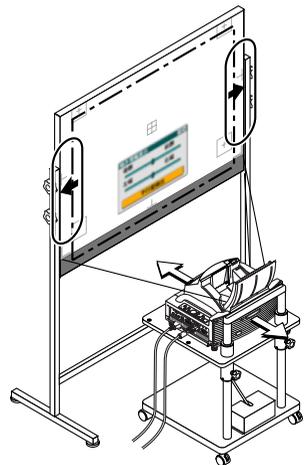


8 **FOCUS +/-** ボタンを押して、投写画面のピントを合わせる。

〔FOCUS +/-〕ボタンを押すと、ピントが合うと同時に、上下方向の台形歪み (▶ 15ページ) も調整されます。

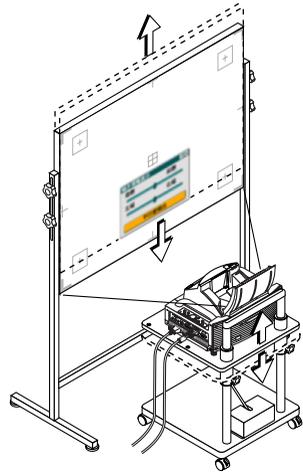


9 本機をスクリーンから離したり近付けたりして、投写画面の左右の端を、スクリーンの幅に合わせる。



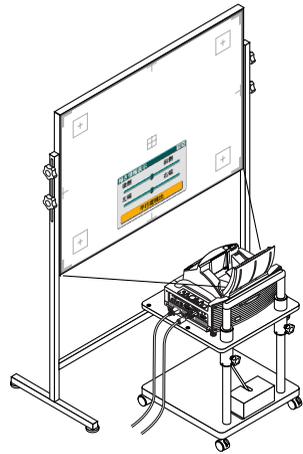
10 スクリーンの高さや置き台の高さを調整して、投写画面の下端とスクリーンの下端を合わせる。

- 注意** ● 別売の専用置き台 (WT61ST) を使用した場合の高さ調整の方法は、専用置き台 (WT61ST) の取扱説明書をご覧ください。



11 (FOCUS +/-) ボタンを押して、もう一度投写画面のピントを合わせる。

- ・スクリーンから投写画面の位置がずれた場合は、手順 9 ~ 11 を繰り返してください。
- ・WT615Jでは、電子ペンを使って本機とスクリーンが平行に設置されているかを確認することができます。詳しくは、次の「本機とスクリーンの平行度を確認する」をご覧ください。



12 投写画面の調整が終わったら、(EXIT) ボタンを3回押す。

オンスクリーンメニューが消えます。

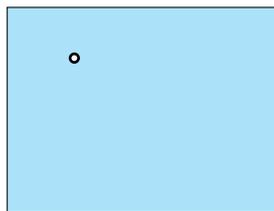
本機とスクリーンの平行度を確認する (WT615Jのみ)

電子ペンでスクリーンの2箇所をタッチして、本機とスクリーンが平行になっているかを確認することができます。

1 [傾き情報表示] 画面が表示されている状態で、(ENTER) ボタンを押す。



画面上に「○」マークが表示されます。



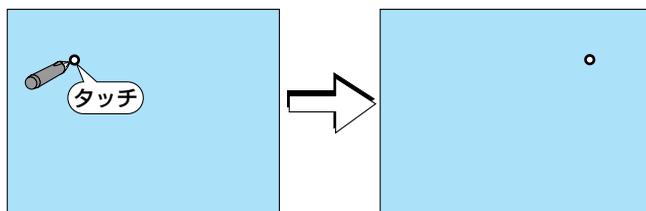
2 画面上の「○」マークの中心を電子ペンでゆっくりタッチする。

- ・「○」マークが消えるまでタッチしたままにしてください。

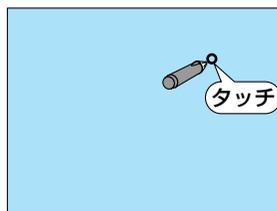
注意

- 電子ペンでスクリーンをタッチする際は、スクリーンに対して電子ペンをできるだけ垂直に立ててタッチしてください。電子ペンを傾けてタッチすると、誤差が大きくなります。

画面上の別な位置に「○」マークが表示されます。



3 画面上の「○」マークの中心を電子ペンでゆっくりタッチする。



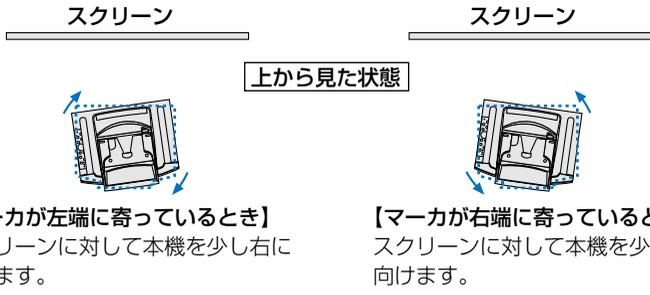
[平行度検出] 画面が表示されます。



[平行度検出] 画面のマーカ位置が中央になっている場合は、手順 **6** に進みます。

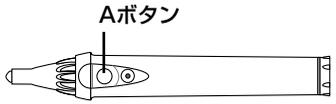
[平行度検出] 画面のマーカ位置が中央からずれている場合は、本機とスクリーンが平行に設置されていません。その場合は、次の手順 **4** に進みません。

4 本機がスクリーンに対して平行になるように、左右方向に少しずつ向きを変える。



5 [平行度検出] 画面上の [再試行] を電子ペンでタッチする。
手順**2**~**4**を繰り返す。

6 [平行度検出] 画面のマーカ位置が中央になったら、電子ペンのAボタンを押す。



[傾き情報表示] 画面に戻ります。
・Aボタンは、0.5秒以上押しただまにしてください。

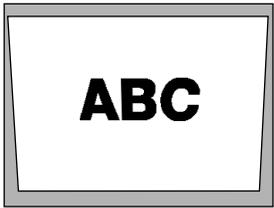
7 (EXIT) ボタンを3回押す。
オンスクリーンメニューが消えます。

注意

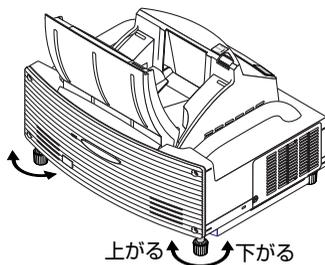
- 本機の光学特性上、台形歪みの他に、僅かに糸巻き型や樽型の歪み (20ページ) が生じる場合があります。投写画面をスクリーンに合わせるには、まず12~13ページの手順**9**~**11** (投写距離の調整→投写画面の高さ調整→フォーカス調整) を行い、投写画面の4つの角をスクリーンの四隅に合わせます。そのあと、糸巻き型または樽型の歪みが気になる場合は、投写する映像信号を選択したあと「8.糸巻き型または樽型の歪みを調整する (ピンクッション補正)」を行ってください。
- (FOCUS +/-) ボタンを押してピントを合わせても台形歪みが改善されない場合やアスペクトが合わない場合は、スクリーンまたは本機が上下左右に傾いていることが考えられます。

現象1

右の図のような台形歪みの場合は、スクリーンが僅かに上を向いているか、本機が僅かに上を向いています。



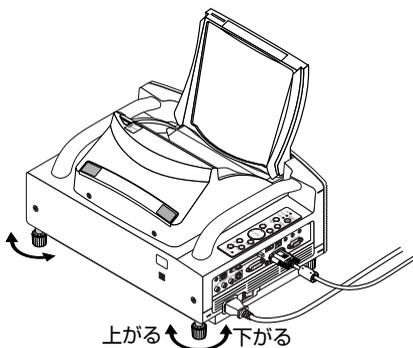
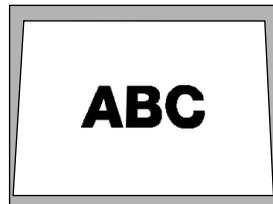
【対処】スクリーンの上部を手前に傾げるか、
下図のように本機のフットを回して台
形歪みを調整してください。



現象2

右の図のような台形歪みの場合は、スクリーン
が僅かに下を向いているか、本機が僅かに下を
向いています。

【対処】スクリーンの下部を手前に傾げるか、
本機の（スクリーン側の）フットを回し
て台形歪みを調整してください。



- 右下の図のように投写画面の上端と下端が平行にならず台形に歪んでいる場合は、
スクリーンと本機が平行になっていないことが考えられます。

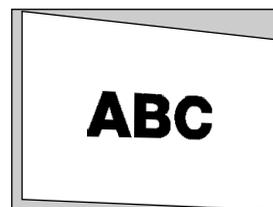
現象3

右の図のように投写画面の左側が上下に広がっ
ている場合は、本機がスクリーンの真正面にな
っておらず、本機がスクリーンの中央より僅
かに左側を向いています。

反対に、投写画面の右側が上下に広がっている
場合は、本機がスクリーンの真正面になっ
ておらず、本機がスクリーンの中央より僅かに
右側を向いています。

【対処】スクリーンの真正面に本機を設置して
ください。

スクリーンと本機が平行になるように設
置してください。



6. 入力信号を選択する

信号選択画面から選択する

- 1** 本機に接続しているパソコンやビデオデッキなどの電源を入れる。

ビデオデッキなどの映像を投写するときは、再生 (PLAY) 操作をしてください。

- 2** **(SOURCE)** ボタンを短く押す。

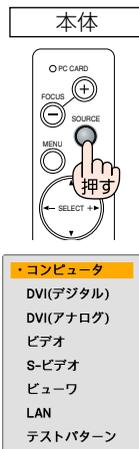
信号選択画面が表示されます。

- 3** **(SOURCE)** ボタンを数回短く押して、投写したい入力信号にカーソルを合わせる。

(SOURCE) ボタンを短く押すたびに、次の入力信号にカーソルが移動します。

- 4** **(ENTER)** ボタンを押す。

- **(ENTER)** ボタンを押さずに約2秒経過すると、カーソルが合っている信号に自動的に切り替わります。



投写する入力信号を自動検出する

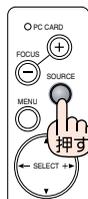
- 1** 本機に接続しているパソコンやビデオデッキなどの電源を入れる。

ビデオデッキなどの映像を投写するときは、再生 (PLAY) 操作をしてください。

- 2** **(SOURCE)** ボタンを1秒以上押す。

投写可能な信号を自動検出します。

- 1秒以上 **(SOURCE)** ボタンを押すたびに、コンピュータ→DVI (デジタル) →DVI (アナログ) →ビデオ→S-ビデオ→ビューワ→コンピュータ・・・と映像 (入力信号) が切り替わります。入力信号がないときは次の信号に移ります。



リモコンを使って選択する

1 本機に接続しているパソコンやビデオデッキなどの電源を入れる。

ビデオデッキなどの映像を投写するときは、再生 (PLAY) 操作をしてください。

2 リモコンの (VIDEO) 、 (COMPUTER) 、 (VIEWER) ボタンを押す。

- (VIDEO) ボタンを押すごとに、ビデオ入力とS-ビデオ入力が切り替わります。
- (COMPUTER) ボタンを押すごとに、コンピュータ→DVI (デジタル) →DVI (アナログ) →コンピュータ→… と入力信号が切り替わります。



参考

- 入力信号がないときは、青い画面 (ブルーバック : 工場出荷状態) が表示されます。ビデオデッキやDVDプレーヤなどは再生 (PLAY) 操作をしてください。
- パソコンの画面がうまく投写できない場合は、補足説明書の「付録」を参照してください。
- ビューワまたはLANに切り替えると、DVI-I音声入力端子 (AUDIO IN DVI-I) に入力されている音声スピーカーから出力されます。

7. 映像を自動調整する

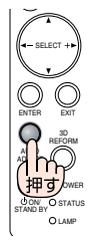
パソコンの画面を投写している場合、投写画面の端が切れていたり、映りが悪いときに、ワンタッチで画質を調整します。

1 (AUTO ADJUST) ボタンを押す。

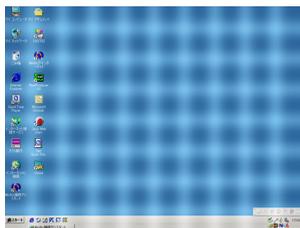
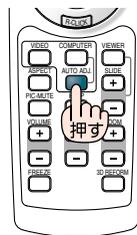
[砂時計] アイコンが表示され、しばらくすると投写画面の表示が自動調整されます。

- ・リモコンで操作する場合は、(AUTO ADJ.) ボタンを押します。

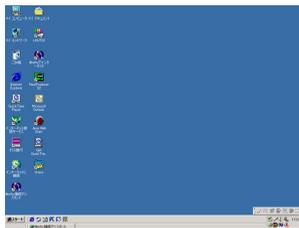
本体



リモコン



【映りが悪い画面の例】



【自動調整後の画面の例】

参考

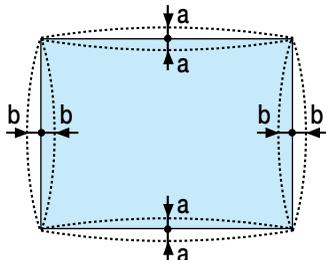
- 自動調整を行っても表示位置がずれていたり、画面に縦縞が出たりして映りが悪い場合は、手動で画面の調整を行ってください。
- パソコンの画面がうまく投写できない場合は、補足説明の「付録」を参照してください。

8. 糸巻き型または樽型の歪みを調整する (ピンクッション補正)

糸巻き型または樽型の歪みが気になる場合は、[ピンクッション補正]で調整してください。

参考

- 本機における糸巻き型または樽型の歪み量について
本機の糸巻き型または樽型の歪み量は、水平方向、垂直方向、各2% (TVディスプレイ)以下です (スクリーンサイズが40型~100型のとき)。
例えば、スクリーンサイズが60型 (幅121.9cm×高さ91.4cm)の歪み量は、水平方向は約12mm、垂直方向は約9mm以内です。本機では、スクリーンサイズ60型のときに、糸巻き型または樽型の歪み量がもっとも小さくなります。



- a: スクリーンの高さの1%以下
(TVディスプレイとしては2%以下)
- b: スクリーンの幅の1%以下
(TVディスプレイとしては2%以下)

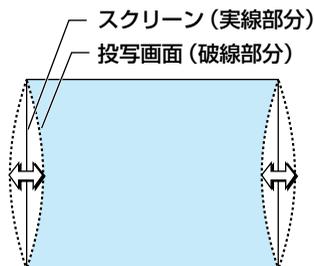
糸巻き型または樽型の歪み量が2% (TVディスプレイ)を超えるような場合は、本機とスクリーンの設置状態が適切か確認してください。

1 本体またはリモコンの (3D REFORM) ボタンを押す。

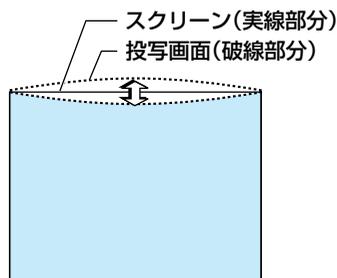
[ピンクッション補正]画面が表示されます。



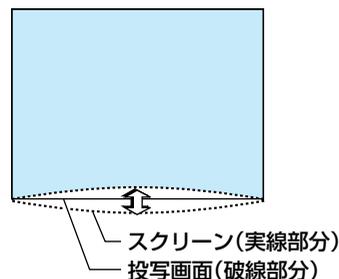
- (SELECT ▼/▲) ボタンを押して [左右] にカーソルを合わせ、(SELECT ◀/▶) ボタンを押すと、投写画面の左右の凹凸を調整できます。



- (SELECT ▼/▲) ボタンを押して [上端] にカーソルを合わせ、(SELECT ◀/▶) ボタンを押すと、投写画面の上端の凹凸を調整できます。



- (SELECT ▼/▲) ボタンを押して [下端] にカーソルを合わせ、(SELECT ◀/▶) ボタンを押すと、投写画面の下端の凹凸を調整できます。



2 [ピンクッション補正] が終わったら、(ENTER) ボタンを押す。
メニューに戻ります。

3 (EXIT) ボタンを数回押す。
オンスクリーンメニューが消えます。

注意

- [ピンクッション補正] 画面において、[上端] の調整値が「0」のときは [下端] の調整はできません。
また、[上端] の調整値が小さい値 (±5程度) のときは [下端] を調整しても画面はほとんど変化しません。
- [ピンクッション補正] 画面において、[下端] の調整値を「0」より小さくすると、投写画面の下端が僅かに欠けることがあります。欠けた部分 (下端) を表示する場合は、[デジタルズーム] で投写画面を縮小してください。
- すでに [4点補正] または [台形補正] が調整されていると、[ピンクッション補正] は選択できません。[ピンクッション補正] を表示する場合は、[4点補正] または [台形補正] の調整値を工場出荷状態に戻してください。

参考

- [ピンクッション補正] 画面は、オンスクリーンメニューの [セットアップ] → [ベリック] で表示することもできます。

9. レーザーポインタを使う

レーザーポインタ機能を使って、効果的なプレゼンテーションが行えます。リモコンの先端からレーザー光（赤い光）を出し、説明したいところをピンポイントで指すことができます。

警告

レーザーポインタのレーザー光源をのぞかない

次の事項をお守りください。レーザー光が目にあたると視力低下・視覚障害の原因となります。

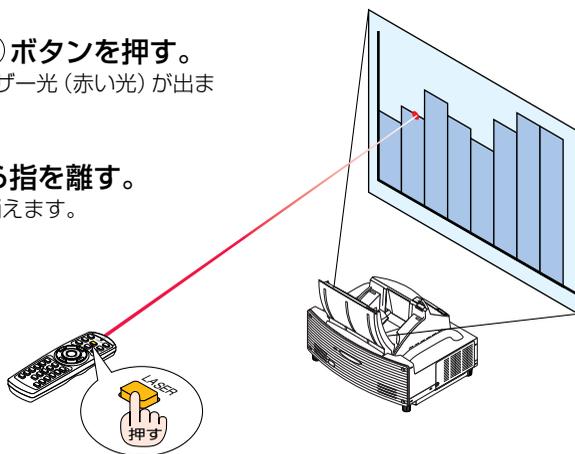
- ・レーザーポインタのレーザー光源をのぞき込まない。
- ・レーザー光を人に向けない。
- ・子供には使用させない。

1 リモコンの (LASER) ボタンを押す。

リモコンの先端からレーザー光（赤い光）が出ます。

2 (LASER) ボタンから指を離す。

レーザー光（赤い光）が消えます。

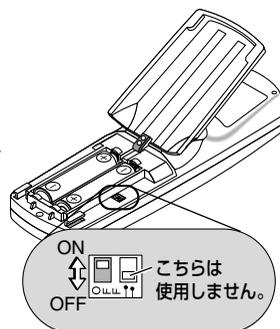


参考

- リモコン底面に次の内容が記載されています。
クラス2レーザー製品 最大出力：1.0mW
波長：640nm～660nm
JIS C 6802:1998
製造者：INTERLINK ELECTRONICS
- レーザーの発光を禁止する場合は、電池ケースの中にあるレーザー光の有効／禁止スイッチを操作してください。
必要に応じて、細いボールペンの先などを使って設定してください。工場出荷状態は「有効」に設定されています。お子様が使用できる環境に置かれる場合は「禁止」に設定してください。
ON側… 有効 (LASER) ボタンを押すとレーザーが発光します。【工場出荷状態】
OFF側… 禁止 (LASER) ボタンを押してもレーザーは発光しません。



JQA



10. 電子ペンを使う (WT615Jのみ)

電子ペンを使って「チョークボード」機能进行操作すると、簡易的な“電子ホワイトボード”が実現できます。

重要

- 電子ペンをはじめて使用する場合、および本機またはスクリーンの設置位置を変更した場合は、電子ペンを使用する前に必ず「ペンキャリブレーション」を実行してください。
- [ピンクッション補正] (👉 20ページ) を行う場合は、ペンキャリブレーションの前に行ってください。ペンキャリブレーションのあとに [ピンクッション補正] を行くと、電子ペンの座標の誤差が大きくなります。
- 電子ペンを使用するときは、電子ペン先端の黒い部分から先は持たないでください。黒い部分より先を持つと、電子ペンが正常に動作しません。

ペンキャリブレーション

スクリーン上を電子ペンでタッチしたときの位置 (座標) と、WT615J本体のセンサーで検出する座標を合わせます。

1 本体またはリモコンの (MENU) ボタンを押す。

オンスクリーンメニューが表示されます。

・コンピュータ
DV(デジタル)
DV(アナログ)
ビデオ
S-ビデオ
ビューワ
LAN
テストパターン
信号リスト



2 (SELECT▶) ボタンを押して[セットアップ]にカーソルを合わせ、

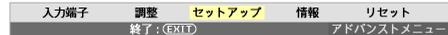
(ENTER) ボタンを押す。

[ベーシック]にカーソルが移動します。

ベーシック | メニュー設定 | セキュリティ | 設置 | オプション

ペンキャリブレーション
傾き情報表示
ピンクッション補正
4点補正
台形補正
ランプモード
メニューモード
表示言語

ノーマルモード
アドバンスドメニュー
日本語



3 (SELECT▼/▲) ボタンを押して[ペンキャリブレーション]にカーソルを合わせ、(ENTER) ボタンを押す。

画面上に「○」マークが表示されます。



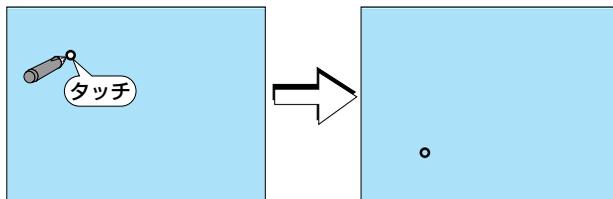
4 画面上の「○」マークの中心を電子ペンでゆっくりタッチする。

- ・「○」マークが消えるまでタッチしたままにしてください。

注意

- 電子ペンでスクリーンをタッチする際は、スクリーンに対して電子ペンをできるだけ垂直に立ててタッチしてください。
電子ペンを傾けてタッチすると、誤差が大きくなります。

画面上の別な位置に「○」マークが表示されます。



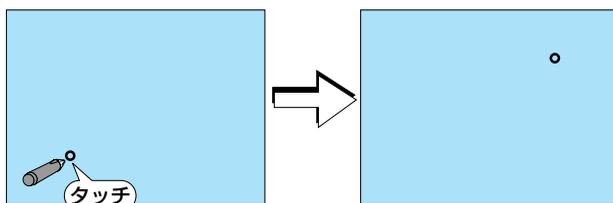
参考

- [ペンキャリブレーション] を中止する場合は、電子ペンのAボタンを0.5秒以上押します。



5 画面上の「○」マークの中心を電子ペンでゆっくりタッチする。

画面上の別な位置に「○」マークが表示されます。



6 手順4 5を何回かくり返す。

ペンキャリブレーションが終了します。

注意

- 次の条件を満たしていないときは、[ペンキャリブレーション] は選択できません。
 - ・ 投写方法：「デスク/フロント」、「天吊り/フロント」
 - ・ スクリーンタイプ：「4 : 3」
 - ・ アスペクト：「4 : 3」
 - ・ 解像度：「フル」
 - ・ デジタルズーム：「100 (%)」
 - ・ [4点補正]、[台形補正]の補正をしていないとき。

チョークボード

電子ペンを使って、本機の「チョークボード」機能进行操作します。

注意

- 電子ペンでスクリーンをタッチしたり線を引いたりする際は、スクリーンに対して電子ペンをできるだけ垂直に立ててタッチしてください。
電子ペンを傾けてタッチすると、ペン先と線の間隔が広がります。また、20度以上傾けてタッチすると、描画されない場合があります。

●チョークボードをスタートする

1 電子ペンのBボタンを押す。

画面の左下にチョークボードツールバーが表示されます。

- ・Bボタンは、0.5秒以上押したままにしてください。



●線を引く

1 (描画種別) アイコンを電子ペンでタッチし、(ペン) アイコンをタッチする。

描画モードになります。

2 (ペンの太さ) アイコンをタッチし、ペンの太さをタッチする。

ペンの太さが選択されます。

3 (描画色) アイコンをタッチし、線の色をタッチする。

描画色が選択されます。

4 電子ペンのペン先をスクリーンに軽く接触したまま文字や図形を描く。

電子ペンの軌跡通りに図形が描かれます。

●線を消す

1 (ペン) アイコンをタッチし、(消しゴム) アイコンをタッチする。

消去モードになります。

2 (ペンの太さ) アイコンをタッチし、ペン (この場合は [消しゴム]) の太さをタッチする。

3 電子ペンのペン先をスクリーンに軽く接触したまま消したい部分へ移動する。

電子ペンの軌跡通りに線が消えます。

●画面全体を消去する

1 (全消去)アイコンをタッチする。

描画した絵柄がすべて消去されます。

●チョークボードを終了する

1 (終了)アイコンをタッチする。

チョークボード画面が閉じます。

参考

- WT610Jの場合は、本機にUSBマウスを接続すると、「チョークボード」機能を使用できます。
- 「チョークボード」で描いた絵柄は、「キャプチャ」機能を使ってフラッシュメモリカードに保存できます。
WT615Jの場合は、添付のUSBメモリにも保存できます。
- eBeam Interactiveソフトウェアのご案内
WT615Jの電子ペン機能をさらに便利に使っていただけるように、対話型デジタルプレゼンテーションツール「eBeam Interactive (イービーム・インタラクティブ)ソフトウェア」をご用意しています。



eBeam Interactiveソフトウェアを使うと、電子ペンで描いた絵柄をPowerPointファイルなどに保存することができます。

eBeam Interactiveソフトウェアは、当社プロジェクターのサポートページ(下記URL)からダウンロード(無料)してお使いいただけます。

ダウンロードする前に、ダウンロードページに記載されている使用条件や制限事項等をご確認ください。

<http://www.nec-display.com/support/projector/vlclub/download/index.html>

※ eBeam、eBeam enabledロゴは、Luidia, Inc. の登録商標です。

11. 本機の電源を切る

1 POWER (ON/STAND BY) ボタンを押す。

画面に確認メッセージが表示されます。

- ・リモコンで操作する場合は、POWER (OFF) ボタンを押します。

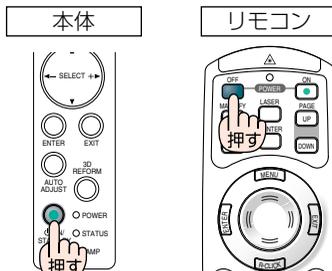
2 もう一度POWER (ON/STAND BY) ボタンを押す。

電源が切れPOWERインジケータがオレンジ色に変わります (スタンバイ状態)。

- ・リモコンで操作する場合は、もう一度POWER (OFF) ボタンを押します。

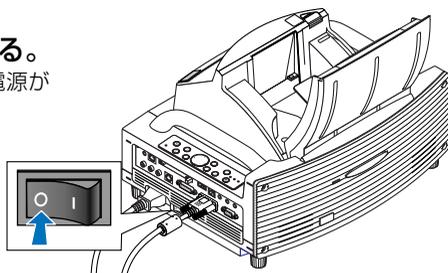
注意

- ・電源を入れた直後のランプの点灯準備中、およびその後のPOWERインジケータ点滅中 (約1分間) は電源を切ることができません。



3 主電源スイッチを「○ (切)」にする。

本機のPOWERインジケータが消え、主電源が切れます。



注意

- ・次のような場合は、主電源スイッチを切ったり電源プラグをコンセントから抜かないでください。
機器が故障するおそれがあります。
 - ・ランプの点灯中。
 - ・電源を切ったあとのファンの回転中 (ファンは約90秒間回転します)。
 - ・PCカードアクセスインジケータが点灯しているとき (ビューワ使用中)。
フラッシュメモ리카ードやLANカード使用時はカードが壊れるおそれがあります。

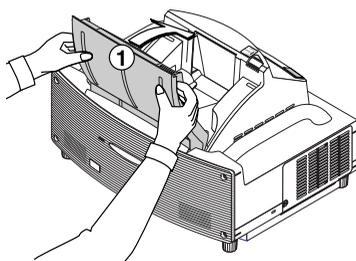
12. あとかたづけ

準備：本機の主電源スイッチが「○(切)」になっていることを確認してください。

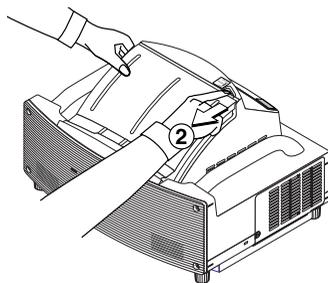
1 ミラーの端を持ってゆっくり閉じる。

注意

- ミラーが完全に閉じるまで、ミラーから手を放さないでください。ミラーを閉じる際に強い衝撃を与えないでください。
- ミラーの表面は触らないでください。ミラーの表面に指紋などが付くと、画質低下の原因になります。



2 ミラー用のロックを指ですらしてロックする。



3 電源コードを取り外す。

4 各種信号ケーブルを取り外す。

5 添付の本体カバーをかぶせる。

輸出に関する注意事項

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、日本国および外国の法に基づいて許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、NECプロジェクター・カスタマサポートセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

ミラー投写型プロジェクター WT615J／WT610J スタートアップガイド

2007年4月 4版

NECディスプレイソリューションズ株式会社

© NEC Display Solutions, Ltd. 2005-2007 Printed in China
NECディスプレイソリューションズ株式会社の許可なく複製・
改変などを行うことはできません。

プロジェクターに関するお問い合わせから修理のご依頼まで プロジェクターの
トータルサポート窓口

NECプロジェクター・カスタマサポートセンター

- NEC製プロジェクターに関するお問い合わせや修理のご依頼を専任スタッフがお受けいたします。

TEL **0120-610-161** FAX 0120-134-516

受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00 (土・日・祝日、その他特定日を除く)
通話料無料：携帯電話／PHS からでもご利用いただけます。

ホームページ <http://www.nec-display.com/support/projector/>

法人様向けユーザーサポートクラブ

ViewLight CLUB ビューライトクラブ

入会金・年会費 無料



- より「安心」で「快適」に ViewLight をお使いいただくために様々なサポートを行うユーザーサポートクラブです。

入会方法 本機に添付しているチラシをご参照ください。

ホームページ <http://www.nec-display.com/support/projector/vlclub/>

NECディスプレイソリューションズ株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目13番23号 (MS芝浦ビル)